

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第944号 平成27年6月9日

職業教育学校

政府は、実践的な職業教育や技能訓練を行う高等教育機関として「職業教育学校」を設置する方針を固めました（6月4日付読売新聞他）。

この「職業教育学校」については、高校卒業後の進学や社会人の専門知識の習得を想定しているとのことですが、詳細は、今後中央教育審議会で検討するとしています。

今回の政府の方針は、「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」の提言を受けたものと考えられますが、「職業教育学校」については今一つイメージが湧きませんし、成長戦略の柱として位置づけようとしている事にも、率直に申し上げて違和感があります。

3月27日に公表された「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」の提言において、既存の大学等に代わる新たな教育機関の創設の必要性について、次のように述べています

- ・社会経済の変化に伴う人材需要に即応した、質の高い職業人養成の量的拡大が必要とされている。
 - ・高等教育体系の多様化が必要とされている。
 - ・社会人の学び直し、地域産業を担う専門職業人養成への対応が求められている。
- 事を上げています。

こうした有識者会議の認識は、即戦力として活躍出来るような人材の養成という産業界のニーズに、大学側が十分応えていないという危機感の表れであろうと思います。

また、有識者会議では、現行の教育制度の下での大学等の現状に関して、

- ・大学は、学生や社会の現代的ニーズに応えた専門職業人養成機能の更なる量的拡大に比重を置いて対応していく事には限界がある
- ・短期大学は、社会の複線化に伴って職業人に求められる能力が高度化している中、短期の修業年限の範囲でこうした要請に対応する事は難しい
- ・高等専門学校は、高等学校等の卒業者を大量に受け入れる事が制度上想定し難い
- ・専門学校は、教員数や施設設備に関する基準が緩やかで、教育の質が必ずしも保障されたものとはなっていない

と分析しています。

民間企業の経営者から、「最近の大卒は、漢字一つまともに書けない者が少なくなく、困っている」といったような話を聞く事があります。そうであれば、新たな教育機関の創設を検討する前に、既存の大学等における教育の質そのものをもっとしっかりと検証する必要があるように思います。

また、有識者会議では、「専門学校は教育の質が必ずしも保障されていない」と評価していますが、果たしてそうでしょうか。勿論、一口に専門学校といっても、そこは玉石混交だと思いますが、私は、4年制大学在学中、若しくは、卒業後に国家資格を取得するために専門学校に通っている人が少なくないといった現状を見ると、専門学校は専門職業人の養成という点で一定の役割を果たしているとは評価しています。

6月4日付の読売新聞は「大学を職業教育校に」とセンセーショナルな見出しを付けて記事を掲載していますが、実際に、既存の大学が「職業教育校」に転換するという事になれば、大学のイメージが大きく変質する事は間違いありません。

ところで、大学の役割については、学校教育法第83条において、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と規定されています。

つまり、大学は、本来「教育」と「研究」を車の両輪として活動すべきものだという事です。これが仮に、職業教育を専門とする教育機関となる場合には、学校教育法でいう大学とは同列に扱う事は難しいと思われれます。

一方、実践的で専門的な職業教育を行う教育機関として専門学校は存在して来ました。にもかかわらず、新たに「職業教育学校」を創設しようというのは、屋上屋を重ねる事になりはしないでしょうか。

政府の構想では、「職業教育学校」の卒業生には「学士」に代わる新たな学位を認定するとしている他、4年制の大学等とは異なり修業年限は設けず、集中すれば半年から1年程度で卒業できるようにする方向としています（6月4日付読売新聞他から）。そうであれば、益々既存の専門学校との差異は判然としなくなります。

昭和の初期に「大学は出たけれど」という言葉が流行しました。これは、大学を出たのに不況で就職が出来ない事を嘆いた言葉ですが、昨今は企業の業績も向上しつつあり、就活環境は改善しています。しかしその一方で、大学は出たけれどそれに相応しい専門的知識も技能も身に付けられないまま卒業する学生が少なくない事に危機感を感じているのは、私だけではないでしょう。ですから、こうした現状を放置したままで、即戦力の人材養成を謳い文句に「職業教育学校」を制度化したとしても、企業サイドからの期待に応える事は容易ではないと思われれます。

「職業教育学校」は、少子化が進む中、学生の確保に苦しむ大学等の選択肢とし

て制度化する狙いもある（6月4日付読売新聞から）という見方もありますが、私には、既存の大学等が「職業教育学校」に衣替えしたからといって、それだけで生き残れる程事態は甘くないと思っています。

学生達に多様な学びの選択肢を確保しながら、同時に、教育の質を如何に向上させるか、これは日本の将来に関わる非常に重要な課題ですので、専門家の英知を集め、慎重かつ、精力的にご検討いただきたいと思います。

（塾頭 吉田洋一）